

編集・発行

うじいえ自然に親しむ会

事務局

さくら市ミュージアム

- 荒井寛方記念館 - 内

第14号

平成25年3月1日

# うじいえ 自然に親しむ会だより

## 平成24年度のこと

会長 加藤 啓三

「シモツケコウホネ」（環境省の希少生物指定）の名付け親の志賀隆新潟大学准教授が県内4番目の自生地であるさくら市を訪れ、つぼみを3個見つけ、その後1個の花が確認され感動しました。

児童生徒へのはたらきかけでは、さくら市内の小学校5校で「自然環境について」の出前授業と、「シナダレスズメガヤ抜き取り作業」に協力できました。さらに、宇都宮市立旭中学校でも環境教育の授業に協力できました。

「あつまれ自然好き」（栃木県立博物館）で活動の発表と写真展示、「はなみずきフェスタ」（JR宇都宮駅東口）で写真展示、「さくら市PRイベント」（宇都宮トヨタウッドユーフーム）で写真展示、氏家税務署管内の納税貯蓄組合総会で活動について発表、栃木テレビの「とちぎ元気通信～みんなでまもろうよ！とちぎの生物多様性～」でシナダレスズメガヤ抜き取り作業が紹介されました。また、「ゆめ！さくら博」（氏家体育館）で写真展示とぬり絵をして、多くの方に本会の活動についてPRできました。

日本河川協会より「河川の自然保護、環境学習、河川愛護等の活動に功績があった」として、東京の砂防会館で表彰を受けました。

全労済代表者会議では「2012年全労済地域貢献助成事業の対象団体」として、ホテル東日本宇都宮で表彰を受けました。

### ◆おめでとうございます◆

**田代俊夫**さんが国土緑化推進機構の緑化功労者（農林水産大臣賞）に選ばれました。

うじいえ自然に親しむ会発足以来顧問に就任、植物観察会等の講師を務められました。また、さくら市で確認された「シモツケコウホネ」についてもお世話になったほか、栃木県内の植物調査に尽力されたことが高く評価されました。

**齋藤大貴**さん（栃木県立さくら清修高等学校3年生）がアルミ缶を切り抜いて作った虫が、第54回栃木県高等学校美術展デザインの部で奨励賞を受けました。

「はぐくむいのち」栃木県立さくら清修高等学校放送部制作が、全国高校放送コンテスト栃木予選の番組部門で優良賞になりました。本会のシルビアジミの保全活動を5か月間取り上げ取材したものでした。

**菊地恵**さん（高根沢町立中央小学校5年生）は、本会のセミの羽化観察会に2年連続で参加して、夏休みの自由研究として出品した「セミの羽化」が塩谷・南那須地区理科展で優良賞（銀賞）を受けました。

# シモツケコウホネ国内希少野生動植物種に指定される

志賀 隆（新潟大学教育学部准教授）

シモツケコウホネ *Nuphar submersa* Shiga & Kadono（スイレン科）は2006年に新種として発表された、栃木県固有の水草です。コウホネの他の種は水面に浮いた「浮葉」や水面から抜き出た「抽水葉」をつけますが、シモツケコウホネは浮葉をほとんどつけず、水の中に葉が沈んだ状態で生育します。栃木県の中～南部にかけて分布し、少なくとも16箇所でも生育していたことが標本調査からわかっていますが、河川や水路の工事によって生育地のほとんどが絶滅してしまっています。2011年にさくら市で日光市、那須烏山市、真岡市に続く第4の生育地が見つかったことは大きなニュースとなりました。

さて、このシモツケコウホネについて、今年の大きなニュースといえば国内希少野生動植物種として指定されたことでしょうか。希少野生動植物種とは、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」、いわゆる「種の保存法」によって指定される絶滅の危機にある野生生物のことを指します。シモツケコウホネは既に環境省のレッドデータリストでも将来の絶滅の可能性が最も高いとされる絶滅危惧 IA 類に指定されていますが、あくまで絶滅の危険性に対する評価であり、この指定自体に採集や生育地の開発行為への法的な拘束力はありません。

現在、国内希少野生動植物種に指定されているものはシモツケコウホネを含めて、鳥類 38 種、哺乳類 5 種、爬虫類 1 種、両生類 1 種、魚類 4 種、昆虫類 15 種、植物 26 種、合計 90 種です。植物の場合、レッドデータリストで絶滅危惧 IA 類に指定されている植物は 519 種ですから、希少野生動植物種に指定されている種がとても少ないことがわかるでしょう。シモツケコウホネが指定された経緯はテレビや新聞等で大々的に報道されましたが、これまでの各地元での地道な保全活動や研究活動によって、その保全の重要性・緊急性が認められたものだと思います。

これまでの調査によって、生き残っているシモツケコウホネの個体数は日光市に 32 個体、那須烏山市に 18 個体、真岡市に 3 個体であることがわかっています。まさに絶滅寸前です。コウホネはタネからも増えますが、多くは地面下の地下茎が分枝することによって群落を拡大します。つまり、一面に広がっていたとしても実はたった1個体かもしれません。その場合、小面積でも複数の個体で構成されている群落の方がより重要と考えることができます。このようにコウホネを守って行く場合、群落の面積はもちろんですが、実際の個体数や遺伝的な多様性を評価する必要があります。さくら市のシモツケコウホネを調べたところ、遺伝的には1個体でしたが、日光市や那須烏山市、真岡市の集団とも遺伝的に異なっていました。シモツケコウホネという種全体の遺伝的多様性やその歴史性を守って行く上では、さくら市のシモツケコウホネは非常に大切な集団であると言えます。

国内希少野生動植物種に指定されたことにより、今後シモツケコウホネの保全活動への注目度も更に増すことでしょうか。これからも大事に守っていただければと思います。



今年花開いた さくら市のシモツケコウホネ

## 夢への第一歩

栃木県立さくら清修高等学校3年 齋藤大貴

ものごころついたころから一貫して変わらなかったのは生物が大好きという思いでした。野山や川で一日中自然観察していても飽きませんでした。小学生の時メディアで1日約100種の生物が絶滅しているという報道を聞き、将来は絶滅危惧種の保護に関わる仕事に就きたいという夢を抱いてきました。

具体的に進路決定の時期に入り、絶滅危惧種が増え続けている背景には、地球温暖化や海洋汚染、砂漠化など地球環境の悪化があり、この環境問題を解決、改善していく事が生態系を守るために重要であることに気が付きました。その事で生物学よりも環境学を学びたいという思いが強くなりました。自然環境を総合的な視野で学ぶことが出来る学科があることを知り東海大学教育学部人間環境学科自然環境課程を受験しようと思えました。

大学説明会の時に東海大の職員の方からAO入試からのチャレンジを薦められ挑戦することにしました。担任の先生に相談したところ、「うじいえ自然に親しむ会」に参加してみてもとのアドバイスをいただきました。私は小学生の時に、この会の昆虫標本づくりや、自然観察会などに参加したことがありました。保全活動に参加するのは今回が初めてでした。会に参加して保全活動の大変さを知ると共に、この会がなかったらカラノギクやシルビアシジミなどさくら市の貴重な自然が失われていたかもしれないと思うと、この会の存在の大きさを実感しました。

大学の入試課題を進める中で生物多様性とちぎ戦略の重点プロジェクトとして取り上げられていることを知り、もっと早くこの活動に参加できていれば良かったなと思えました。誰かが気づき行動し続けることが生物多様性の維持に繋がるのです。大学入試課題では会の活動の歩みと、自己で調査させていただいた保全区と保全区以外の植物の生息数の比較などをし、この活動が環境保全に果たす役割を考察させていただきました。

大学では様々な視点から環境に関する諸問題を学び、新たな価値観創出のために必要な人文・社会学の知識まで身につけたいと思います。環境カウンセラー、技術士補等の資格を得るとともに、NPO活動や野外活動にも積極的に参加したいと考えています。

私は、地元さくら市から離れてしまうので思ったような参加は出来なくなると思いますが、大学で得た実践力や行動力を生かし少しでも力になることの出来る自分になれるように頑張りたいと思います。今後もこの会をはじめとする保全活動の大切さを皆に伝えるとともに、貴重な生態系を守っていくためにもこのような活動を継続的に続けていきたいです。

加藤さんをはじめ、皆様には暖かく応援していただき感謝しています。これからも機会を見つけて参加したいと考えていますのでどうぞよろしくお願いたします。



アルミ缶を切り抜いて作った「クビナガモドキ」  
第54回栃木県高等学校美術展デザインの一部で奨励賞を受賞

## 氏家小学校の児童が鬼怒川の自然環境を学習

理事 佐藤 裕

さくら市立氏家小学校の3年生と5年生が今年度も総合的学習のひとつとして鬼怒川の自然をテーマにそれぞれ体験学習をおこないました。3年生はさくら市ミュージアムとゆうゆうパークを見学、5年生はシナダレスズメガヤの抜き取り作業を体験しました。

年間行事とは別なので加藤会長と一部役員が協力して対応しました。

後日、参加した児童たちからたくさんのメッセージがよせられましたので、一部をご紹介します。

「先週はシルビアシジミのことについてたくさん教えてくださってありがとうございます。おかげでシルビアシジミのことがくわしくわかりました。ミヤコグサのこともわかりました。ミヤコグサはなぜへっているのかということとか、シルビアシジミのたまごのおおきさもわかりました。ミヤコグサをおおっているシナダレスズメガヤをぬく行事をやっていると聞いたので、わたしもやってみようと思います。これからもシルビアシジミを守る活動がんばってください。」（3年生）

「今回は、ぼくたちを指導してくださりありがとうございます。シナダレスズメガヤはぬくのが大変でした。そしてシナダレスズメガヤによってカワラノギクやミヤコグサが絶滅してしまうのがわかりました。ぼくは、今はうじいえ自然に親しむ会には入れないけれど、大人になってもこの会があったら入ろうと思います。そしてぼくはこれから、氏家にいる絶滅きぐ種を調べて、なぜ絶滅しそうなのかを調べようと思います。今回はぼくたちのために時間をつくって来てくださりありがとうございます。」

終わったあとはとてもいい気分でした。そして、とても勉強になりました。ぼくたちのためにカンバッジも手作りでありありがとうございます。」（5年生）

### ★楽しく美味しい「柚子ねり」作り★

理事 佐藤アサ

平成24年12月2日、自然に親しむ会の行事として初めて「柚子ねり」作りをしました。

好天气に恵まれ、さくら市ミュージアムの民家広場で行ないました。講師の加藤眞紀子さんのご指導のもと、親しむ会の会員や一般の方に15～16人位でわきあいあいと甘くて美味ができました。

作り方はとても簡単。レシピが知りたい方は、会長の加藤啓三さんにお問い合わせ下さい。



初めての「柚子ねり」作り

### ★今後の予定★

平成25年

●3月24日(日) 9:00～

シナダレスズメガヤ抜き取り作業  
(サッカー場西側保全地)

●4月21日(日) 10:00～

シナダレスズメガヤ抜き取り作業とカ  
ワラノギクの種まき作業  
(東京大学実験地)

●5月26日(日)

シルビアシジミ観察会 (10:00～)

(ミヤコグサ第1、2管理地)

平成25年度定期総会 (13:00～)

(ミュージアム講座室)

記念講演会 (14:00～15:30)

「身近な野鳥から考える生物多様性」

講師：日本野鳥の会 栃木

代表 高松健比古氏